

## 語彙獲得を難しくしているもの —英単語とその訳語の表す品詞の差異—

小川 洋一

生徒に“kind”（親切な）の意味を尋ねると、ほとんどが「親切」と答えます。「では、“kindly”は?“kindness”は?」と尋ねると黙ってしまいます。日本語の世界で育った彼らにとっては、いずれも同じことなのでしょう。考えてみると、英和辞書にはそれら3つが載っていますが、国語辞典には「親切」という項しかありません。また、“She is very kind.”の和訳を見ると「彼女は とても 親切 です.」と“kind”＝「親切」であるかのように思えます。英語を学ぶ以上は日本語から離れる必要があるにもかかわらず、それができずに生徒は英語修得のスタートである語彙獲得でつまづいているようです。

上記のような品詞の無理解や日英語の品詞の違いを意識しないことが原因で生徒の語彙獲得に混乱が生じたり読解力が伸び悩むことも多いのではないかと思います。そういう観点から改めて英単語の訳語に注目してみると、気になることがいくつか見えてきました。そこで、それらを基礎単語を中心にまとめてみます。

### 〔I〕訳語から動詞と誤解されやすいもの

- (A)
- a. 副詞 “late”(遅れて)→「遅れる」  
 “away”(離れて)→「離れる」  
 “off”(離れて、外れて、切れて)  
 →「離れる、外れる、切れる」
- b. 前置詞 “across ~”(～を横切って)  
 →「横切る」  
 “around ~”(～を回って、巡って)  
 →「～を回る、巡る」  
 “over ~”(～を越えて)  
 →「～を越える」
- c. 形容詞 “dead”(死んだ、死んでいる)→「死ぬ」  
 “angry”(怒った、怒っている)→「怒る」

“wet”(ぬれた、湿った)  
 →「ぬれる、湿る」

### (B) 訳語が動詞化できる名詞であるもの

- a. “death”(死亡)→「死亡する」  
 “life”(生活)→「生活する」  
 “speech”(演説)→「演説する」
- b. “idea”(考え、思いつき)→「考える、思いつく」  
 “lesson”(けいこ)→「けいこする」  
 “difference”(違い)→「違う」
- c. “song”(歌)→「歌う」

### (B') 動詞としてだけでなく名詞としてもよく用いられる語

- a. “answer”(返事、返答)→「返事する、返答する」  
 “attack”(攻撃)→「攻撃する」  
 “plan”(計画)→「計画する」
- b. “dream”(夢)→「夢(を)見る」  
 “love”(愛、恋)→「愛する、恋をする」
- c. “end”(終わり)→「終わる」  
 “fight”(けんか、戦い)→「けんかする、戦う」  
 “mistake”(まちがひ)→「まちがえる」
- d. “jump”(ジャンプ)→「ジャンプする」  
 “kiss”(キス)→「キスをする」  
 “knock”(ノック)→「ノックする」

### (C) 感覚的になんとなく動詞と誤解されやすい語

- “fast”(速い、速く)→「速く動く(走る)」  
 ※つい、ものが移動している場面をイメージする
- “slow(ly)”(遅い、ゆっくりした、のろい)  
 →「遅く動く」
- “quickly”(すばやく)→「すばやく動く」
- “down”(下に(へ))→「下に(へ)移動する」
- “up”(上に(へ))→「上に(へ)移動する」

“out”(外に(へ))→「外に(へ)出る」  
 “into”(中に(へ))→「中に(へ)入る」  
 “speed”(速さ, 速度)→「速く動く(走る)」

### 〔Ⅱ〕訳語が動詞的ではないもの

“be”(です, である, だ), “like”(好きだ),  
 “remain”(～のまま), “belong to ～”(～のものだ),  
 “look” “seem” “appear”(らしい, ようだ, そうだ),  
 “want”(欲しい)

### 〔Ⅲ〕日英語で表現方法が異なる場合

(A) 訳語が2つの要素の組み合わせになる動詞

a. 「～を 一する」

“listen”(耳を傾ける) “clean”(掃除をする)

“paint”(ペンキを塗る) “smoke”(タバコを吸う)

b. 「～が一する」

“rain”(雨が降る) “snow”(雪が降る)

“light”(火がつく)

c. 「副詞+する」

“clean”(きれいにする) “smile”(にこにこする)

d. その他

“get”(手に入れる) “need”(必要とする)

(B) 訳語は動詞だが英語は“be 動詞+形容詞”のもの

“be late”(遅れる) “be useful”(役に立つ)

“be sure”(確信する [している])

“be afraid”(恐れる, 心配する)

“be wrong”(まちがっている)

“be present”(出席している)

語彙獲得は単に暗記するだけということで、ともすれば生徒に任せっぱなしということが現実にはほとんどだろうと思われませんが、以上のような日英語のもつ差異に留意した指導が適切に行われる必要があると信じます。

(京都府立乙訓高等学校教諭)